

科目	生活行動援助技術演習				
時間数	1 単位 30 時間	授業方法	講義、演習	授業時期	1 年
講師名	③三谷奈都季 ③藤田景子				
実務経験	③看護師(医療機関)				
ねらい	入院中の対象の日常生活行動をイメージできる事例を作成。生活行動援助技術で学んだ援助技術を組み合わせて、援助場面(寝衣交換、洗髪、バイタルサイン測定等)を想定して、実践的な演習を行う。看護過程の学びを活かして、情報の整理・分析、計画、実施、評価できる。				
目標	<p>提示された共通事例において</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループ活動を通して、自己の役割を全うするとともに、グループ間で協力し合うことができる(基礎看護学実習Ⅰまでに) 2. 対象の状況を考慮した援助を計画することができる 3. 対象の状況を考慮し、援助を実施することができる 4. 実施した援助を振り返ることができる 5. 振り返ったことを、次の援助の計画に繋げることができる(基礎看護学実習Ⅱまでに) 6. アセスメントしながら必要な援助を考えることができる 7. 対象の状況を考慮した、看護計画を立案することができる 8. 退場の状況を考慮し、看護を実施することができる 9. 実施した看護を SOAP で振り返ることができる 				
授業計画					
回	内容				
1	前半演習ガイダンス(事例紹介 情報を整理し、必要な援助とその目的を考える)				
2	事例に基づいてアセスメント及び援助計画立案				
3	事例に基づいて技術演習及び、援助計画の追加・修正 //				
4、5	実技テスト: 援助計画に沿って援助の実施・報告				
6、7	3 年生による指導演習 (基礎看護学実習Ⅰで受け持った事例をもとに講義・演習)				
8、9	後半演習ガイダンス 基礎看護学実習Ⅰの事例で立案した看護計画(看護過程の講義で立案)を用いて、必要な観察や技術の演習				
10	受持ち患者のプレゼンテーション準備				
11、12	受け持ち患者のプレゼンテーション実施(患者情報の共有)				
13	看護計画に沿って再現場面の練習(看護計画の追加・修正まで)				
14、15	実技テスト: 看護計画に沿っての看護の実施(看護場面の再現)・報告				
評価方法	その時間数の 3 分の 2 以上の出席者に限り受験資格を与える。 前半の演習で 50%、後半の演習で 50% 及び平素の学習状況を総合して評価する。 60 点以上を及第点とする。				
教科書	基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ: 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 第 3 版: 医学書院、デジタル教材				